

郷音

山形県立産業技術短期大学校庄内校

【きょうおん】
ふるさとの言葉づかい
国なまりという意。



SHONAI COLLEGE OF
INDUSTRY & TECHNOLOGY

SHONAI COLLEGE OF INDUSTRY & TECHNOLOGY

【教育振興会会報】 平成30年10月10日発行

第31号

オープンキャンパス・飛庄祭（学校祭）を開催



平成30年10月8日、本校において秋のオープンキャンパスを行いました。今年は、株式会社スタンレー鶴岡製作所に勤務されている卒業生が来校し、会社紹介と本校で学んだことが会社でどのように活かされているかを講演していただきました。また、当日は飛庄祭（学校祭）も同時に開催され、多くの来場者で賑わいました。

目次

オープンキャンパス・飛庄祭（学校祭）	①
食と健康（活性酸素と戦う食事法）（校長）	②
各学科の教育活動・PR	③～④
企業実習（体験記）	④～⑤
夢と希望に燃える平成30年度入学生	⑤
平成30年度入学者数	⑥

卒業研究発表会テーマ一覧	⑥～⑧
平成29年度進路状況	⑨
就職先企業のご紹介、受賞に輝く卒業生	⑨
卒業生便り・創立20周年記念事業	⑩
平成31年度学生募集	⑪
新任職員紹介	⑫



食と健康（活性酸素と戦う食事法）

山形県立産業技術短期大学校庄内校
校長 尾形 健明

「食と健康」の続編として、山形県米沢市に生息しているウコギを紹介したい。ウコギ葉には、高い活性酸素消去作用だけでなく、血糖値低下作用などの新たな機能が見いだされ、健康食材として注目されている。

山形県米沢市にはウコギの垣根が多く見られる。ウコギ科には、ヒメウコギ、ヤマウコギ、エソウコギ、コシアブラ、タラノキ、ウド、コウライニンジンなどが含まれるが、米沢で見られるウコギのほとんどはヒメウコギである。このヒメウコギは中国東北部原産の雌雄異株の落葉低木であり、平安朝時代に日本に輸入された（日本には雌株がほとんど）。古くからその根皮は五加皮とよばれ、疲労回復、強壮、冷え性、腹痛や神経痛の治療などを目的に使われている。一方、米沢およびその周辺では古くから新芽や新梢を食用とする習慣がある。茎に鋭いトゲを持つことから、戦国時代の城下町では防犯を兼ねた生垣として盛んに植えられていた。米沢のウコギ垣が造られた時期は、上杉家の米沢移封（1601）に伴い執政として米沢城下を整備し、現在の城下町米沢の基盤を築いた直江兼続公（1560－1619）の時代と言われている。その後、米沢藩九代藩主上杉鷹山公（1751－1822）の時代になると、多くの飢饉が起これ、そのため救荒食品として植栽を奨励したのみならず、鷹山公の命で発行された飯糧集（はんろうしゅう、1783）にも葉を食用としたヒメウコギを記載するなど、住民を飢饉から救ったといわれている。



現在の米沢市のヒメウコギの垣根は質・量ともに日本一である（総延長 20 km）。このような地域伝統作物ウコギの活用を目指して、ウコギ食品研究会（2003）や米沢ウコギ振興協議会（2016）が産学官連携事業として発足し、様々な取り組みがなされている。その成果の一つとして、ウコギ葉にも種々の機能性成分（ポリフェノール類、ビタミン類、ミネラル、食物繊維、アミノ酸類、サポニン類）が一般野菜よりも多く含まれ、種々の薬理作用（活性酸素消去作用、血糖値上昇抑制作用、血圧低下作用など）を示すことが明らかになった。これまでのウコギの利用は、新芽を使ったウコギごはん、新芽の切り和え、新芽や新梢の天ぷらやおひたしなどの伝統食に限られていた。最近では様々なウコギ料理が考案されるとともに、ウコギ関連商品として、パスタソース、ふりかけ、ドレッシング、ウコギ茶粉末、煎餅、飴、アイスクリーム、こんにゃく、茶飲料、焼酎などが市販されるようになった。

以上のように、ヒメウコギは消費者にとって魅力的な機能性成分を多く含有しているとともに、文化的・歴史的ストーリー性をもっているため、高い商品性を有する潜在力を秘めている。今後も新たなウコギ料理やウコギ関連商品が開発されることを期待したい。

（参考文献）農山漁村文化協会，地域資源活用 食品加工総覧 素材編，11，78 の 2（2008）；*New Food Industry*，53，63（2011）；食品と開発，46（4），75（2011）；米沢の伝統野菜うこぎ（2016）；うこぎの町米沢かき根の会ホームページ <http://www.mindp.co.jp/ukogi/>

制御機械科

会員の皆さまには何かとお世話になっております。昨年度（平成29年度）も就職率100%を維持することができました。これも会員の皆さまのおかげと深く深く感謝申し上げます。今年度も昨年度同様、就職率100%を目指します。昨年11月には1年生は東京ビックサイトで開催された国際ロボット展を見学しました。また2月には卒業研究発表会が開催されました。教育振興会の企業の方々をはじめ高校の先生方など多数お迎えし2年生は日ごろ取り組んだ研究課題について発表しました。



今年度は1年生8名、2年生15名の体制でスタートしました。学生の適正と能力にあわせた指導を行うため2コース制の授業が平成27年度から始まり4年目となりました。機械技術者育成コースでは機械系の資格取得を目指しており昨年度は技能検定2級（普通旋盤、機械検査、シーケンスなど）に合格することができました。メカトロニクス技術者育成コースではメカトロ製品の設計から製作までの一連のものづくりの流れを体験します。

昨年度はモーターカー、レーザー加工機、XYテーブル制御装置など総合的課題のものづくりができました。今年度はさらに内容を充実させたいと考えています。

8月に石川県で実施された若年者ものづくり競技大会に参加しました。また、来年2月に宮城県で実施される東北ポリテックビジョンの発表、競技会に参加を予定しています。会員企業の皆さまには、これまで以上のご支援、ご指導よろしくお願いいたします。

電子情報科

昨年度、「若年者ものづくり競技大会」にて銅賞と敢闘賞に入賞し、さらに「東北ポリテックビジョンものづくり競技会」にて準優勝に輝きました。

さて今年の学生も先輩達に続けと頑張っております。第56回技能五輪全国大会「ITネットワークシステム管理」職種選考会に2年富樫菜々子さんが参加し、優秀技能賞を受賞し、11月に沖縄で行われる全国大会への出場権を獲得しました。また第13回若年者ものづくり競技大会「業務用ITソフトウェア・ソリューションズ」職種に2年赤塚智君、「電子回路組立て」職種に2年長谷川春輔君が出演し、ともに敢闘賞を受賞しました。これでこの競技会での入賞は3年連続になりました。これもひとえに会員企業の皆様方のご支援の賜物と感謝申し上げます。

2年生は、実践コース10名と基礎コース3名の合計13名です。8月上旬に就職を希望する学生が全員内定をいただくことができました。早期に全員の内定をいただくことができたのは、学生一人ひとりの就職活動に対する意識の高さと、ご支援いただいている会員企業の皆様のお陰だと思っております。また昨年10月に、幕張メッセで行われた「CEATEC JAPAN2017」を見学しました。この展示会は電子情報関連の最先端を紹介するアジア最大規模のものです。普段の生活ではまだ目にする事のない最新のICT技術などを体験することができました。参加に当たり振興会より学生に助成をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

1年生は、実践コース2名と基礎コース10名の合計12名です。実践コースの学生は、10月の基本情報技術者試験の合格を目指してチャレンジしています。基礎コースの学生は、まずITパスポート試験の合格を目指しつつ、その先のステップアップを考えて頑張っています。情報分野における専門技術を身に付けると共に、社会で活躍するための実践力を養う活動にも力を入れています。

会員企業の皆様方には、これまで以上のご理解とご支援を賜りますように、よろしくお願い申し上げます。

国際経営科

国際経営科では、身に付けた実力を客観的に証明する手段として資格取得を積極的に奨励しており、授業において指導を精力的に行っております。また、協定に基づいて庄内地区の高校との教育連携にも取り組んでおります。ここでは、この1年間の資格試験の合格実績を紹介するとともに、酒田光陵高校との教育連携の現状についてご報告いたします。

資格試験の合格状況について

国際経営科では、これまでに日商簿記1級をはじめとする高度資格の合格者を輩出しておりますが、平成29年度も、引き続き多数の資格試験で合格実績を上げております。情報分野では3名の学生が日商PCプロフェッショナルの認定を受けたほか、日商PC検定2級の合格者が卒業生の88%に達するという過去最高の実績を残しました。このほかITパスポート試験の合格者が出ております。簿記会計分野と経営分野では、昨年度に引き続いて日商簿記2級と秘書検定2級の合格者を輩出しております。今後も、全ての学生に1年次で日商簿記3級の合格を課すとともに上位級に向けた指導の拡充を図ってまいります。なお、国際経営科の卒業生は申請により税理士試験の受験資格を得ることができるようになっています。

高校との教育連携について

平成28年度から酒田光陵高校ビジネス会計科に対して簿記教育の連携事業を行っております。国際経営科の教員が日商簿記1級対策と2級対策の2クラスの出張授業を実施しています。この出張授業は3日間の集中授業を年3回実施する形式で運営されており、総授業時間は1年間で54時間に達します。国際経営科の授業に換算すると18コマ分(2単位)に相当する教育支援を行っていることとなります。

また、平成29年度からは酒田光陵高校普通科に対しても「総合学習」の時間を利用してSPI対策(就職試験)の出張講義・演習を実施しております。国際経営科の教員は、年間をとおして平日の授業時間帯に定期的に出張して講義・演習を行っております。酒田光陵高校普通科の生徒は、2年生の後期から3年生の前期までの1年間に渡って国際経営科の教員から7回のSPI非言語分野の講義・演習を受けております。



全学科企業実習

学生が企業社会の実情に触れ、職業人としての自覚と学習意識の向上を図るため、3学科の1年生全員を対象に11月から2月にかけて企業の皆様のご協力を得て、企業実習を実施しました。

実習先：株式会社ヨロズエンジニアリング

制御機械科2年 日高 翔河

私は、株式会社ヨロズエンジニアリングで企業実習させて頂きました。この会社では主に自動車のサスペンションを作るための金型、生産設備の製品開発から設計、製造まで行っています。実習内容としては機械加工で使われる刃物のメンテナンスとNCプログラムの作成と実際にプログラムを使っての加工をさせていただきました。今回の実習を通して、NC工作機械を扱う難しさを知るとともに、もっと機械加工について知識や技術を身に付けたいと思うきっかけになりました。この実習で学んだことを活かし、社会に出てからも頑張りたいと思います。株式会社ヨロズエンジニアリングの皆様、ありがとうございます。



実習先：株式会社高研

電子情報科 2年 伊藤 兼

私は、株式会社高研さんの品質管理部で企業実習をさせていただきました。製品検査では、細かい傷でも不良品になってしまうので、細心の注意を払って製品を検査する必要がありました。中でも、印象深かった生体モデルの検査では、規定の検査項目が沢山あり、検査作業の重みを感じました。ただ検査するだけでなく、その製品に関する知識や技術も必要だと実習を通して学びました。加えて、社会人として必要となるマナーや心構え、コミュニケーション能力を身に着けることができました。ご指導くださった株式会社高研の皆さま、ありがとうございました。この経験を来年からの社会人生活で活かしていきます。



実習先：株式会社チャンピオン

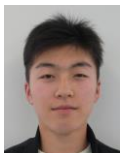
国際経営科 2年 小松 佳司

私は、株式会社チャンピオンさんで企業実習をさせていただきました。商品の店出しや陳列、売り場作りなどを様々な部門で体験しました。ペット用品のコーナーでは、入荷した商品の陳列を担当したのですが、商品の種類がとても多く、作業にはとても時間がかかりました。小売業での実習ということで、学校で学習している販売技術論の内容を実際に体験し、より深く理解することができました。この経験を今後の活動に生かしていこうと思います。



(紙面の都合上、受入れいただいた企業への感想等全てを掲載できなかったことをご容赦ください。)

夢と希望に燃える平成30年度入学生



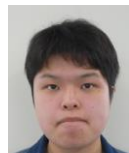
制御機械科
吉泉 友翔

私は、工業高校でものづくりの基礎を学んできました。産業技術短期大学校庄内校では、より専門的な知識や技術を学びたいと思い進学しました。

高度な技術を身につけ、地元の産業に貢献できる技術者として活躍できるようになりたいと思っています。

特に現在は普通旋盤 2 級の取得に向けて練習を日々取り組んでいます。

産業技術短期大学校庄内校での二年間を充実したものにするために、ひとつひとつに目標を掲げ、それを達成し、自分自身が成長できるように努めていきたいです。



電子情報科
伊藤 颯

私は、工業高校で三年間情報通信のことについて学んできました。産業技術短期大学校庄内校ではこれまでに学んだことのない新たなプログラミング言語をはじめとしてさらに深く情報技術を勉強したいと思っています。そしてプログラミング技術を磨き世の中の役に立つようなシステムを作ることができるようになりたいです。今の目標は1年のうちにITパスポートを取得し、2年生の春には基本情報技術者試験に合格することです。また、学生のうちにいろいろな人と関わりをもってコミュニケーション能力を向上させたいと考えています。そして、社会に出た時に頼りにされる人材になれるように普通の学生生活から頑張っていきたいと考えています。



国際経営科
太田 信侃

私は高校時代に取得した全商簿記などの検定で得た知識を発展させること、また県内外で起こっているグローバル化に対応する知識を身に着けることを目標に当校に入学しました。当校の特色である少人数教育のおかげで、より授業の内容や実務に関する知識を深く理解することができ、自分の目標達成へと着実に近づいていることを実感しています。

私は、これからの学生生活で簿記を中心とし、様々な検定を取得して自身の目標を達成し、県内企業に就職し企業の発展へと貢献していきたいです。

平成 30 年度 入 学 者 数

	制御機械科	電子情報科	国際経営科	合 計
男	7	10	2	19
女	0	1	7	8
合 計	7	11	9	27

卒業研究発表会『テーマ』一覽

《平成 29 年度卒業生》

2月13日から14日までの2日間、本校の大講義室において平成29年度卒業生の卒業研究発表会を開催しました。2年間の集大成として取り組んだテーマの要旨を掲載していますが、詳細については、指導教員にお問合わせください。

平成 30 年 2 月 13 日 (火)

学科名 制御機械科

番号	テ ェ マ	要 旨	発表学生	指導教員
1	エコラン競技車両の製作	本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ全国大会出場に向けた車両を製作する。	伊藤 瑞季 小池 隆馬 野口 詩乃	津田 勇
2	VR（仮想現実感）を用いた仮想サイクリングシステムの構築	スマートフォンを利用した VR ヘッドセット技術とエアロバイク、マイコン技術を組み合わせ、体感型の仮想サイクリングシステムを構築する。	板垣 元基 後藤 泰智	新居 徹哉
3	画像処理で物体検知を行うバラ積みロボットの製作	小型卓上スカルロボットと学習型の画像認識システムを組み合わせ、非工業分野にも広く活用可能な作業支援ロボットの開発を行う。	伊原 弘雅	
4	圧縮試験による骨の力学的特性と骨密度の関係評価	骨の強度は骨密度と骨質に相関があるといわれている。本研究では壊死骨の力学的特性を評価するための第一段階として、圧縮試験で得られる実験結果と骨密度の関係について検討を行う。	赤塚 尚稀	小笠原 誠
5	表示器を活用した制御装置の制御と監視	プログラマブルコントローラによるシーケンス制御装置を視覚化、集約管理などを可能にする表示器を使用した制御装置の試作を行う。	齋藤 拓海	佐藤 義則
6	マイクロメータ測定ビデオ教材の開発	ものづくりの現場において欠かせないマイクロメータについてのテキスト、問題集、ビデオ教材の開発を行う。	藪田 千裕	飛田 成浩
7	競技用コマの開発～全国製造業コマ大戦に向けたコマの開発～	全国製造業コマ大戦に向けた競技用コマの設計、開発を行う。	富塚 健太 本間 翼	
8	技能検定機械検査 2 級実技計画立案等作業試験（旧ペーパー試験）の教材開発	過去、計画立案等作業試験（旧ペーパー試験）で出題された問題の類似部品を製作し、作業手順および測定具の使い方などをテキストにまとめた。	田村 臣平	

平成 30 年 2 月 14 日 (水)

学科名 電子情報科

番号	テ マ	要 旨	発表学生	指導教員
1	競技会の説明	電子情報科の学生が参加した「若年者ものづくり競技大会」および「技能五輪全国大会」などの競技会について説明する。	佐藤 瑠偉	全 員
2	競技会参加報告 「若年者ものづくり競技大会」 職種：電子回路組立て	平成 29 年 8 月 3 日と 4 日に開催された第 12 回若年者ものづくり競技大会の電子回路組立て職種に参加した。本競技の参加報告を行う。	後藤ちひろ	阿部 功
3	競技会参加報告 「若年者ものづくり競技大会」 職種：オフィスソフトウェア・ソリューション	平成 29 年 8 月 3 日と 4 日に開催された第 12 回若年者ものづくり競技大会のオフィスソフトウェア・ソリューション職種に参加した。本競技の参加報告を行う。	池田 崇大	岡崎 徹
4	電子情報科の今年度の卒業研究 統一テーマ「IoT Town」	電子情報科の卒業研究では、プロジェクト型課題解決実習(PBL)を導入し、3つの学習分野に沿ったテーマを設定している。PBLの目的や取り組みの詳細および各テーマについての説明を行う。	齋藤 俊希	全 員
5	会社名: Life System Solutions テーマ: 耐障害性に優れた SDN システムの学内ネットワークへの導入	従来の学内ネットワークにあるファイアウォールや L3 スイッチ等の機能を、OpenFlow スイッチへ統合し、OpenFlow コントローラで制御することによって、耐障害性に優れたネットワークを構築した。メインサーバが停止してしまった際でも、自動的にサブのサーバに切り替わり、シームレスな通信が可能になる。	佐藤 瑠偉 鈴木 彩香	開沼 和広 芝田 浩
6	会社名: Induction Engineering テーマ: イベント順路案内システム - 通常時の催し物案内と災害時の避難支援 -	来場者に催し物の案内と災害時の避難支援ができる順路案内システムを開発した。来場者に BLE ビーコンを所持してもらい、希望するルート案内を案内端末で行えるようにした。災害時は、緊急警報ボタンを管理者が押すことで、案内端末を災害用表示に切り替え、来場者に災害の発生を迅速に伝えることが可能になる。	阿部 俊輝 加藤 裕太 後藤ちひろ 齋藤 俊希	吉田 明弘 渡辺 雄二
7	会社名: Future Next テーマ: 誰でも楽しく多くの催し物を回ることができるスタンプラリーシステム	昨年度作成したビンゴ形式のスタンプラリーをもとに、スタンプラリー参加者に多くの催し物を見てもらうために、イベント通知機能等を追加し改良した。また、誰でもスタンプラリーを楽しめるようにスタンプラリー専用端末も開発した。	渡部 和良 池田 崇大 丸藤 和也 櫻井悠太郎	阿部 功 岡崎 徹

平成 30 年 2 月 14 日 (火)

学科名 国際経営科

番号	テ ー マ	要 旨	発表学生	指導教員
1	自動車教習所の経営モデルから見る現状と課題の考察	少子化や若者の車離れなども影響して、自動車教習産業は縮小の一途をたどっている。この業界に関する先行研究は少なく、10 年以上前の状況を扱ったものがほとんどである。本研究では、最近の自動車教習所の経営モデルを分析し、それらの現状や課題、今後の動向を考察する。	福島 聡	佐々木 健
2	観光者数に着目した道の駅を取りまく環境要因分析	人口減少の進行に伴って地域経済の衰退が懸念される中、山形県の観光地の一つとして道の駅が注目されている。その中で観光者数の動きに特徴のある 2 つの道の駅に注目し、どのような環境要因があり、その中でどのような戦略を展開しているのか分析していく。	村山 未久	高橋 永子
3	棚卸資産会計における後入先出法に関する一考察	棚卸資産会計基準において、評価方法の 1 つである「後入先出法」の使用が 2008 年に禁止されている。そこで、なぜ使用が禁止されなければならなかったのか理由を明らかにしつつ、採用企業への影響を視野に入れた、今後のあり方について考察していく。	鈴木 晴桂	鷹鷲 直也
4	アニメを利用した町おこしに関する一考察	アニメを利用した「町おこし」に取り組んでいる全国の市町村の中で、特に盛り上がりが見える茨城県大洗町を中心に、その成功要因の調査・研究を行い、山形にどのように活かす事ができるかについて考察を行う。	渡部 亮太	吉田 勝紀
5	上場企業における不正会計の事例研究 ー調査報告書を手がかりにー	近年、内部統制制度が整い不正の発生可能性が低いと考えられていた上場企業において、不正会計が多発している。本研究では企業から公表された調査報告書を読み解き、不正会計の発生要因の分析をおこなっていくとともに、分析結果からみえる内部統制制度の限界についてもあわせて考察をおこなう。	齋藤 尚樹	原田 文規
6	エネルギー基本計画に関する考察	我が国が抱えているエネルギー問題として、他国に化石燃料などを輸入依存していることや技術革新による中長期的なエネルギー需要が変化していることがあげられる。エネルギー基本計画について整理し、今後いかにしていくべきかについて考察する。	武田 翔	佐藤 圭治

平成29年度 進路状況

項目 学科名	卒業者	就職 希望者	就職 内定者	地域別内訳						就職 内定率 (%)
				庄内 地区	村山 地区	最上 地区	置賜 地区	県内計	県外計	
制御機械科	12	12	12	10	0	0	0	10	2	100.0
電子情報科	10	10	10	9	0	0	0	9	1	100.0
国際経営科	6	6	5	1	3	0	0	4	1	83.3
計	28	28	27	20	3	0	0	23	4	96.4

就職先企業のご紹介（五十音順・敬称略）

制御機械科	電子情報科	国際経営科
阿部エンジニアリング株式会社	株式会社SIG	イオンリテール株式会社東北カンパニー
環清工業株式会社	オリエンタルモーター株式会社 鶴岡中央事業所	北郡信用組合
株式会社グローバルマシン	株式会社管理システム	株式会社鶴岡自動車学園
JFEスチール株式会社	株式会社スタンレー鶴岡製作所	株式会社原田機械
株式会社スタンレー鶴岡製作所	株式会社センタージムキ	株式会社マツキ
セントラル電子制御株式会社	竹本産業株式会社	
TDK庄内株式会社	株式会社日情システムソリューションズ	
テクマン工業株式会社	パイプ・ラインエンジニアリング株式会社	
東北電機鉄工株式会社	株式会社平田牧場	
株式会社ヨロズエンジニアリング	株式会社フェイバーエンジニアリング	

受賞に輝く卒業生

庄内校の平成29年度卒業式が3月15日に行われ、卒業研究や2年間の学業成績が特に優秀だった学生、学習へ取り組む姿勢や日常活動が他の模範となった学生が表彰されました。

山形県知事賞	制御機械科	伊原 弘雅
学校長賞	電子情報科	渡部 和良
	国際経営科	村山 未久
教育振興会長賞	制御機械科	齋藤 拓海
	電子情報科	池田 崇大
	電子情報科	後藤 ちひろ
	国際経営科	渡部 亮太



写真：後列（左から）渡部亮太君、池田崇大君、齋藤拓海君
前列（左から）後藤ちひろさん、村山未久さん、
（尾形校長）伊原弘雅君、渡部和良君



こんにちは。2期生 国際経営科出身の渡部です。庄内校を卒業して早19年、私が現在勤務している会社に勤めてからも19年目となります。

私は鶴岡市の三和にあり、株式会社ウエノに勤めております。株式会社ウエノは電子機器の誤作動を防止するチョークコイルの設計・製造メーカーです。工場も海外では中国、タイにあり、国内では本社と同じ鶴岡市に藤島工場、三川に三川事業所があります。いずれも入社した時にはなかったもので、時の移り変わりを感ぜますし、会社が変化し続けている事を実感します。最近では働き方改革という言葉もありますが、いかに時間を短縮して効率よく業務を行うか、という事を常に考えながら業務を行っておりますが、その中でやはり周りの方との連携が重要になってきます。メールや電話などを使いつつ、やはり人と人とのコミュニケーションが取れてないとうまくはいきませんし、それがうまくいって目標を達成できた時の達成感やかけがえのないものだと思います。今振り返ると、19年間同じ部署でやってこられたのも、そういった達成感や充実感があったからだと思います。私の所属している生産管理部は生産管理課と資材課の2つに分かれており、業務は多岐に渡ります。デスクワークの他にも、顧客を訪問し弊社の製品をPRし、見積書発行、商談進捗を管理する営業、工場との納期調整の為の海外工場へ出張、クレーム対応で不良品の選別等、毎日変化のある日々を過ごしております。

来年より年号が変わり、消費税も増税になるなど、世の中も目まぐるしく変化しており、この庄内の製造業もどんどん変わっていくと思いますが、変化を恐れずに柔軟且つ臨機応変に対応していきたいと思っております。その為には向上心を持って継続した努力をし、モチベーションを維持していく事が大事だと思いますが、会社以外での人や組織との関わり合いも大事だと感じております。プライベートを充実させれば自然と仕事にも集中できると思っております。

在校生の皆様も、学校の講義も勿論非常に大事ですが、それ以外でのコミュニティとの関わりを持ち、視野を広げて頂き、学校生活も私生活も楽しんで頂きたいと思っております。卒業生として、社会人として、これまで以上に仕事に邁進したいと思っております。山形県立産業技術短期大学校在校生、卒業生の更なるご活躍に期待しております。

創立20周年記念事業



昨年10月18日、本校体育館において山形県立産業技術短期大学校庄内校並びに山形県立庄内職業能力開発センターの創立20周年記念式典を挙行了しました。この20年間、温かい御支援と御協力を賜りました多くの皆様から御臨席いただきました。引き続き、サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社 中原光一研究部部長を講師にお招きし、「サントリーの研究の志 ー創造と挑戦ー」というテーマで御講演いただきました。また、学生、訓練生、教職員が見守る中、山形県知事（代理）、教育振興会長、校長、センター所長、学生代表及び訓練生代表による記念植樹が行われました。

平成31年度学生募集

1 募集科・募集定員

- 制御機械科 20名
- 電子情報科 20名
 - 情報技術者育成実践コース（実践コース）
 - 情報技術者育成基礎コース（基礎コース）
- 国際経営科 20名

2 入学試験日程

	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
推薦入学試験	10月22日(月) ～	11月10日(土)	11月15日(木)	11月19日(月) ～
社会人特別入試（第1期）	11月5日(月)			12月3日(月)
一般入学試験 （前期）	11月12日(月) ～	12月1日(土)	12月6日(木)	12月10日(月) ～
社会人特別入試（第2期）	11月26日(月)			12月25日(火)
一般入学試験 （中期）	12月25日(火) ～	1月26日(土)	1月31日(木)	2月4日(月) ～
社会人特別入試（第3期）	1月21日(月)			2月18日(月)
一般入学試験 （後期）	2月25日(月) ～	3月16日(土)	3月19日(火)	3月19日(火) ～
社会人特別入試（第4期）	3月11日(月)			3月25日(月)

3 募集区分

		制御機械科	電子情報科		国際経営科
			実践コース	基礎コース	
推薦 入学試験	一般推薦	●		●	●
	IP推薦		●		
	指定校推薦	●	●		●
一般 入学試験	前期	●	●	●	●
	中期	●	●	●	●
	後期	●	●	●	●
社会人特別入学試験		●			●

4 試験科目（全ての入学試験に面接試験有）

		制御機械科	電子情報科		国際経営科
			実践コース	基礎コース	
推薦 入学試験	一般推薦	数学Ⅰ ※1		数学Ⅰ	小論文
	IP推薦		小論文		
	指定校推薦	面接のみ	小論文		小論文
一般 入学試験	前期	数学Ⅰ・小論文 ※2	数学Ⅰ・小論文	数学Ⅰ・小論文	選択科目・小論文 ※3
	中期	数学Ⅰ・小論文 ※2	数学Ⅰ・小論文	数学Ⅰ・小論文	選択科目・小論文 ※3
	後期	数学Ⅰ・小論文 ※2	数学Ⅰ・小論文	数学Ⅰ・小論文	小論文
社会人特別入学試験		数学Ⅰ			面接のみ

- ※1 技能検定（3級以上）合格者は、数学Ⅰの試験免除有
- ※2 技能検定（3級以上）合格者は、小論文の試験免除有
- ※3 選択科目は①簿記・会計、②国語総合（古文、漢文を除く）・現代文Bのいずれか1科目選択
また、日商簿記（3級以上）等合格者等は、選択科目試験免除有

事務局

副校長（兼）事務局長 小松 英輝



この4月に副校長を拝命した小松です。酒田市の出身です。教育振興会の皆様には、いつも大変お世話になっております。特に昨年度の20周年記念式典への御支援、本年度は8月に開催した企業懇談会において貴重な提言をいただきましたことに対し改めて御礼を申し上げます。本校については、校名と初代の清水校長の存在程度しか知らなかった私ですが、今後は教職員が力を合わせ、生徒が入学して本当に良かったと思えるような学校づくり、企業からの信頼を得て企業から望まれるような生徒の育成に尽力していきたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

教務学生主幹（兼）教務学生課長 澤田 敏規



学校での勤務は初めてで、多くの教職員の方々に支えられながら日々の業務を行っております。教育振興会の皆様からは、学生の企業実習の受入れや教育活動への協力をいただき、また、喫緊の課題である定員の確保に向け貴重な提言をいただくなど、ご支援をいただき深く感謝しております。多方面に本校のPRを行い、認知度向上に努めるとともに、求人企業との橋渡しを行うなど、学生の就職支援に取り組んでまいります。

総務主査 小林 実



4月の人事異動により着任しました小林です。鶴岡市(旧羽黒町)出身です。主に学校の維持管理の仕事を担当しています。学生が安全で充実した学校生活が送れるよう環境づくりを頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

教務厚生推進員 阿部 由利



4月より教務学生課でお世話になっております。学校行事の準備や学生窓口等を行っています。経験はありませんが、学生の皆さんが充実した学校生活が送れるよう、業務に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

教員

指導主幹（兼）教授（制御機械科） 庄司 英明



4月に庄内校に着任し、制御機械科でCAD/CAM/CAE関連の講義・実習を担当しております。専門は機械系ですが、プラスチック射出成形金型や、3Dスキャナを使ったヤマガタダイカイギュウの3次元形状測定と3Dプリンタによる複製など、広い分野に携わってまいりました。これまでの経験を制御機械科の教育訓練や地域企業との技術支援等に活かしたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

教授（電子情報科） 萬年 亨



3年間の山形校勤務を経て、4年ぶりに庄内校に戻って参りました。以前と同様、電子情報科にて主に電子系を担当致します。わずか3年のインターバルでしたが、この間コース制の導入、実習設備の更新などがあり環境の変化を感じています。短大校の特色を最大限活かし、地元産業界の要望に応える人材育成に努めてまいります。今後とも教育振興会会員の皆様のご助言を何卒よろしくお願い申し上げます。

編集発行

山形県立産業技術短期大学校庄内校教育振興会

〒998-0102

山形県酒田市京田三丁目57番4号

TEL0234-31-2300・FAX0234-31-2770

編集後記

平成9年4月に開校した山形県立産業技術短期大学校庄内校は創立20周年記念式典を開催することができました。会員の皆様には、これまで同様に温かい御理解と御支援をお願い致します。